

広島市への提言書

「交流」を中心とした白木地域のまちづくり

平成28年9月16日

白木町まちづくり推進協議会

白木地域のまちづくりに向けて

白木町は、広島市の北東境に位置し、白木山、神ノ倉山をはじめ多くの山々に囲まれ、全域が中山間地となっている。地域を南北に縦断する県道広島三次線は、広島都心部と県北の安芸高田市、三次市をつなぐ役割を果たしており、県道に沿って市街地が形成されているが、平成9年以降は、人口減少が続いている。

白木町では、都心への通勤者の住宅地域と広島市の農業の屋台骨を支える農業振興地域が共存しており、「住」と「農」が両立している。また、県道広島三次線沿いは多くの人が行き交う街道となっている。このように、白木町は、決して過疎化が進んでいるだけのまちではない。

高齢化が進んだ現状では人口維持そのものは難しいかもしれないが、今後は、「住」と「農」の共存により育んできたまちの魅力、交通の大動脈である県道広島三次線などを生かし、白木町の住民だけでなく、町外、特に都市に住む人々に白木町に来てもらうことにもっと目を向けたまちづくりを進めるべきである。

こうした思いから、白木町では、「交流するまち」を主なテーマとし、また、

- 1 地域外から人が集まるまちづくり
- 2 4地区の特長、魅力を活かしたまちづくり
- 3 若者が住みやすいまちづくり
- 4 安全・安心で楽しく住み良いまちづくり

を取組の柱として、まちづくりを進める。

白木地域での取組

1 地域外から人が集まるまちづくり

交流による地域の賑わいづくりを効果的に進めるためには、地域外からより多くの来訪者を受け入れ、何度も来てみたいと思われるまちづくりを進める必要がある。このため、都市部の住民をメインターゲットとした交流拠点を確保するとともに、様々な交流活動についてPRを行う。

特に、白木山や神ノ倉山公園は、都市部の住民が集う人気スポットとなっているが、魅力の維持・向上を図ることで更に多くの来訪者を呼び込むために、白木山の駐車場等の整備や神ノ倉山でのスカイスポーツ等と連携した大河原廃川敷の有効活用、神ノ倉山公園の維持管理に重点的に取り組む。

① 白木山の駐車場等の整備

白木山は多くの登山ルートを持つ人気のある山であり、いつでも登山者が訪れやすい環境を整える必要がある。特に、白木山周辺で発生している違法駐車を解消するため、広島市が地元住民から土地の提供（貸付）を受け、JR白木山駅登山口付近にトイレを備えた大型駐車場を整備する。

② 大河原廃川敷の有効活用

大河原廃川敷活用策検討委員会が取りまとめた活用策を踏まえ、パークゴルフの公認コース、スカイスポーツの体験場や着陸場、人工芝サッカーコート、管理棟、駐車場などを整備し、地元が主体的に運営していくことで、大河原廃川敷を交流の拠点として有効活用する。

③ 神ノ倉山公園の維持管理

地元住民が作り上げ大切に守り育ててきた神ノ倉山公園を、今後とも恒久的な憩いの場所とするため、樹木管理や剪定のための機械に係る管理費用や肥料の購入費用などについて必要最低限の行政支援を得ながら、引き続き、地元住民が主体となった維持管理を行う。

④ 市民農園の有効活用

園内や周辺で地域の特産品を販売するなど、三田市民農園や見張市民農園を多くの県道広島三次線利用者が立ち寄る場として有効活用する。

⑤ 芸備線各駅のホームと列車昇降口との段差解消

芸備線各駅のホームと列車昇降口との段差を解消することにより、障害者や高齢者など誰もが容易に白木町を訪れることのできる環境を整備する。

⑥ 神ノ倉山ふじまつり等のPRを強化（TV広報等）

さくらまつり（4月開催）やふじまつり（5月開催）のTV広報等を通じて、桜・ふじ・つつじといった神ノ倉山公園の春の魅力を広くPRし、井原地区等における交流人口の増加を図る。

⑦ 神ノ倉山・荒谷山をスカイスポーツ（パラグライダー・ハングライダー）のメッカとしてPR

スカイスポーツ（パラグライダー・ハングライダー）の離陸場・着陸場を有する神ノ倉山・荒谷山周辺が日本有数のフライトエリアであることを都市部の住民にPRし、愛好家団体による大会や体験イベントなどを通じて地域の活性化を図る。

2 4地区の特長、魅力を活かしたまちづくり

地域内外の住民同士の交流を増やすためには、4地区（井原、志屋、高南、三田）それぞれの特長や魅力を更に高めていく必要がある。このため、各地区のセールスポイントに精通した地元住民が自らまちづくり活動に参加することで、様々な交流活動を展開していく。

① 白木高校跡地の活用【高南地区】

平成24年3月に廃校となった白木高校の跡地について、スポーツ活動以外の用途でも十分な活用が図られるよう、大学等の研修施設としての利用、児童館や運動公園の整備など、地元の声を反映した抜本的な活用策を検討する。

② 中郡古道、湧水などの地域資源を活用した活動の推進【中郡古道：井原・高南・三田地区、湧水：高南地区】

中郡古道沿線の見どころを紹介するエコツーリズムを開催したり、枋谷地区の湧水を引いた水くみ場を設置・管理するなど、住民同士が協力しながら様々な地域資源を活用することで、住民間の交流を促進する。

③ 農業体験活動や自然体験活動等の受入【井原地区】

井原地区などで農業体験や自然体験等の受入を実施し、都市部の若者が地域の人々との交流を通じて白木町の自然や文化、生活、人々の魅力に触れる機会を提供する。

④ 神楽などの伝統文化の継承【志屋地区】

志屋地区を拠点とする宮崎神楽団の活動や後継者育成を支援するなど、白木町の伝統文化を継承することで、将来にわたって文化的な魅力を維持する。

⑤ シャクヤクの里の活性化【高南地区】

桧山地区や正木地区で地元住民と都市住民が協働してシャクヤクの栽培や販売等に取り組み、シャクヤクを活用して地域の活性化を図る。

⑥ 芝桜による三篠川の美観向上【井原地区、三田地区】

地元住民が芝桜を三篠川の土手に植え育てることで、三篠川沿いの景観を向上させ、都市部等の住民を井原地区や三田地区などに呼び込む。

3 若者が住みやすいまちづくり

急激な人口減少を抑制するためには、若者が住みやすいと実感できるようなまちづくりを進めていく必要がある。このため、「住」と「農」が共存する白木町の特長を生かして、若手の新規就農者を支援するなど、就労環境や生活環境の充実に取り組む。

特に、有害鳥獣対策は、4地区に共通した喫緊の課題であり、若者の就農支援につながるだけでなく、安全・安心なまちづくりにも寄与することから、重点的に取り組を進める。

① 有害鳥獣対策

地元住民自らが設置する防護柵について、広島市が十分に資材を提供できるよう関連予算を拡充し、また、白木出張所で有害鳥獣に関する相談や申請を受け付け、地域に密着して捕獲・追い出し等を指導する日を週に1回程度設けることで、農作物等の被害を防止し、若者が就農しやすい環境を整備する。

② 新規就農者の受入

白木町では、新規就農に有利な葉物野菜の栽培が盛んであることから、白木町を新規就農者受入の重点地域に位置付け、農地を積極的に斡旋するとともに、栽培技術の習得等を支援する。

③ 上水道や下水道等のインフラ整備

上水道が整備されていない志屋小学校より西側の地区において、住戸の前まで配水管を布設するなど、上水道や下水道等のインフラを整備し、生活環境を向上させる。

④ 空き家の紹介など若手の新規就農者等の移住を支援

若手の新規就農者が営農場所付近に住宅を確保できるよう、地域が把握した白木町の空き家情報を就農希望者に発信するなど、若者を対象とした移住支援策を実施する。

⑤ 大学（広島文教女子大学等）やNPO等と連携したまちづくり活動の推進

小中学校の活動や地域行事などで、大学（広島文教女子大学等）やNPO等を受け入れ、連携したまちづくり活動を進めることで、地域の活性化を図る。

⑥ 寺子屋学習塾を通じた小・中学生と大学生とのつながり、地域を担う人材の育成

白木中学校で開催している大学生等のボランティアによる無料学習塾（寺小屋学習塾）に継続して取り組み、小・中学生と大学生とのつながりを深めつつ、学力アップにより地域を担う人材を育成することで、安心して子育てをすることができる環境を整える。

⑧ 早稲田大学との連携による地域活性化

早稲田大学との連携による地域活性化。早稲田大学は、広島県と連携し、地域活性化を図る。早稲田大学は、広島県と連携し、地域活性化を図る。早稲田大学は、広島県と連携し、地域活性化を図る。

⑨ 広島県立大学との連携による地域活性化

広島県立大学との連携による地域活性化。広島県立大学は、広島県と連携し、地域活性化を図る。広島県立大学は、広島県と連携し、地域活性化を図る。広島県立大学は、広島県と連携し、地域活性化を図る。

4 安全・安心で楽しく住み良いまちづくり

人口減少や少子・高齢化が進展する中でも、高齢者などが引き続き住み慣れた地域で安心して生活できるよう、生活交通の確保や見守り活動等を通じて、安全・安心で楽しく住み良いまちづくりを進めていく。

特に、柏木橋の架け替えや県道広島三次線・県道大林井原線の歩道整備・拡幅は、地域が長年抱える課題であるにも関わらず、解決に向けた大きな進展がないことから、重点的に取組を進める。

① 柏木橋の架け替え

老朽化した柏木橋は高南小学校の通学路にもなっており、幅員が狭く、降雨や降雪、路面凍結の際には歩行者の通行が非常に危険な状態になることから、早急に架け替えを行う。地権者の了解が取れないなどにより早期の架け替えが困難な場合には、歩行者専用の側道橋を設置することで、歩行者の安全を確保する。

② 県道広島三次線、県道大林井原線の歩道整備・拡幅等

児童や高齢者が安全に歩行できるよう、県道広島三次線（新宮～戸石、山根～見張、市川、三田など）の歩道整備を進める。また、県道大林井原線では、古屋などで歩道整備と2車線化のための拡幅を実施するとともに、頻発する交通事故を防止するため、全線を追い越し禁止にする。

③ 三篠川等の災害防止対策

三篠川、関川、河津川などの河川について、整備計画を住民へ周知し、護岸改修等を早期に実施するとともに、自治会連合会や自主防災会等と連携して、現状における危険度の開示やハザードマップの更新を行うなど、減災、免災の観点から、水害に強いまちづくりを進める。

④ 路線バスの利便性向上（安佐市民病院行きのバス便確保・増便）

バス路線の終点を荒下地区に変更するとともにバス便を増便することで、高齢者が安佐市民病院へ通院するための交通手段を確保するなど、路線バスの利便性向上を図り、誰もが安心して生活できる環境を整える。

⑤ 地域が主体となった生活交通の確保策の導入検討

自宅からバス停までの往復が困難な交通弱者等を支援するため、自家用自動車による有償運送や乗合タクシー等の導入など、地域が主体となった生活交通の確保策を検討し、実施に当たっては収支不足等について広島市からの支援を受ける。

⑥ 高齢者の見守り活動や買い物支援

地区社会福祉協議会などの地域団体が積極的に高齢者の見守り活動や買い物支援に取り組めるよう、広島市が実施する取組への補助制度について、手続きの簡素化等の見直しを進める。

⑦ 災害時の避難体制や安否確認体制の充実

広島市が把握した災害弱者の状況等について、広島市からの情報提供を受け、民生委員や自治会、自主防災会等が連携して避難支援者を確保するなど、災害時の避難体制や安否確認体制を充実させることで、共助による地域防災力を高める。

⑧ 子どもや高齢者が利用する身近な運動広場の設置

高齢者の健康増進や子どもの体力向上を図るため、小越地区などに高齢者がランドゴルフなどの軽い運動を楽しむことができ、子どもが遊び場としても利用できる運動広場（ちびっこ広場、老人運動広場等）を整備する。

白木地域のまちづくりに向けた取組



